

2015 FIM世界耐久選手権シリーズ第2戦

“コカ・コーラ ゼロ” 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第38回大会

三重県 鈴鹿サーキット

観客動員数：120,000人（4日間合計）

公式予選：9番手（Aグループ5番手）

TOP10トライアル：7番手

決勝：14位（198周）

トラブルを乗り越えて受けたチェッカーフラッグ

今年も暑い夏が鈴鹿にやってきた。TOHO Racing with MORIWAKIは、エース山口辰也と初代Moto2チャンピオンのトニ・エリアス、スーパースポーツ世界選手権SS600クラスで優勝経験を持ち、ロードレース世界選手権Moto2クラスに参戦中のラタパーク・ウィライローという国際色豊かな布陣で2015年の鈴鹿8耐に臨んだ。

7月に入り2度の合同テストで山口が作り上げたマシンをベースにレースウイークのコンディションに合わせてながらアジャストして行く。84台という、ここ10年で一番多いエントリーを集めた2015年の鈴鹿8耐。金曜日に行われた公式予選は、2組に分けられ、各ライダーが2回ずつのセッションでタイムアタックを行った。TOHO Racing with MORIWAKIは、エリアスが第1ライダー枠で出走。2分09秒台を切ることはできなかったが、第2ライダー枠で走った山口が2分07秒622をマークし、ヤマハワークスのポール・エスパルガロ選手に続く2番手につけていた。うれしい誤算は、第3ライダー枠を走ったラタパークがケーシー・ストーナー選手について行き2分07秒821と山口と変わらないタイムをたたき出したことだった。この結果、激戦のAグループで5番手となり、土曜日のTOP10トライアルに進出した。

1周のみのタイム計測で争われるTOP10トライアル。まずはラタパークがタイムアタックし、2分09秒877と初めての経験ながら無難にこなしてくれた。そしてエース山口が2分08秒382を出し、この時点ではトップタイムにつけた。その後、予選上位もアタックし、7番手グリッドが確定した。

決勝日は気温35度、路面温度は60度を超える厳しい暑さに見舞われた。ライダーがマシンに駆け寄るル・マン式スタートで始まった決勝レース。好スタートを見せた山口は5番手で1コーナーをクリアするとオープニングラップで2台をかわして3番手でホームストレートに戻ってくる。ヨシムラ、ハルク・プロ、TSRという優勝経験のあるチームとトップ争いを繰り広げる。6日目には2分09秒372というチームベストを出す。このタイムは全体でもチーム5番目のタイムとなり、その実力を証明していたのだが…。



思った以上に路面温度が上がったことで問題が発生し、ペースを落とさなければならない状況となってしまいトップグループから離されてしまう。その後、アクシデントが発生しセーフティーカーが入るが、ここで山口は予定通りピットインし、エリアスにライダーチェンジする。鈴鹿8耐初参戦のエリアスは、セーフティーカーランも初めてのことであったが、ここに落とし穴があった。解除のときにコントロールライン手前で追い抜きをしてはいけないということを、しっかり伝えていなかったのだ。エリアスの次に走ったラタパークのときにピットスルーペナルティを受け順位を下げてしまうが、そこから3人のライダーがトップチームと変わらないペースで周回。山口の走行のときにパーツが破損するトラブルがあり再度タイムをロスしたが、最後まで諦めずにチェッカーフラッグを目指した。

セーフティーカーが6回も入る波乱のレースとなった2015年の鈴鹿8耐。予期せぬトラブルやペナルティがあったが、TOHO Racing with MORIWAKIとして4年目の鈴鹿8耐は、14位でゴール。結果は満足できるものではなかったが、チーム力があること再確認できたことも事実。全日本シーズン後半戦、そして来年の鈴鹿8耐に向けて手応えを感じたレースとなったのだった。

第1ライダー 山口辰也

「最初のスティントでリズムを作るためにもペースを上げてチームを引っ張って行こうと思いトップグループを走っていました。実際、ペースもそれほど速くなかったのですが、路面温度が高く思うように走ることができずペースを下げざるを得ませんでした。

決勝でトラブルなどもありましたが、3人が3人とも速く走ることができていましたし、マシン造りやチームワークもよかったことを改めて確認できましたし、次のレースに向けてモチベーションも上がってきました。今年も多くの方の応援があり鈴鹿8耐を戦うことができました。本当にありがとうございました」



第2ライダー トニ・エリアス

「ペナルティやトラブルがなければ表彰台に上がることができたと思います。チームメイトの山口選手、ラタパーク選手を始め、TOHO Racingもモリワキ、テクニカルスタッフも、素晴らしい人たちばかりで、すごくボクをサポートしてくれました。鈴鹿8耐に初めて参加することができ、すごくいい経験になりましたし、来年も、またここに戻って来ることができたら幸せだと思います」



第3ライダー ラタパーク・ウィライロー

「鈴鹿サーキットを走るのは全日本 GP250 を走っていたころ以来なので 10 年振りでしたし、鈴鹿 8 耐はもちろん、スーパーバイクマシンを乗るのも初めてでしたが、TOHO Racing with MORIWAKI がいいマシンを用意してくれたので、安心して攻めて行くことができました。鈴鹿も新しいシケインができ、安全性が増していました。耐久レースには、かねてから参加してみたいと思っていましたし、自分のレースキャリアの一つとして大きな経験となりました。サポートしてくれた、すべての人に感謝します」



チーフメカニック 戸井田剛コメント

「今年は、MOTO2 元チャンピオン トニ・エリアス選手と現役 GP ライダー ラタパーク・ウィライロー選手がチームに加わってくれ、山口選手の調子もいい状態だったので、チームのモチベーションが例年以上に高かったと思います。レースウィークは、ライダー3 人ともいいタイムで安定して走行していましたが、レース中マシントラブルを出してしまいライダー、チーム、スポンサー様に対し、申し訳なく思っています。

マシン修復後も、集中力を切らさず、安定したハイペースで走行し、14 位まで追いつけてくれたライダーには、本当に感謝しています。

また、アドバイザーと通訳を引き受けてくれた、高橋裕紀選手とご協力を頂いたモリワキエンジニアリング様、スポンサー様各位にこの場をおかりしてお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

全日本は、残り 4 レースありますので、表彰台に上げられるよう努力したいと思います」

総監督 福間勇二コメント

「鈴鹿 8 時間耐久レースに参戦するにあたり、ご支援ご協力頂きました全てのスポンサー様、応援してくださいました皆様に心より厚く御礼申し上げます。ライダー、メカニック、地元東広島の皆様とチーム一丸となり挑んだ今年の 8 耐ではマシンのトラブルもありましたが最後まで諦めず完走することが出来ましたことを嬉しく思います。

これからもチーム一丸となり、精一杯努力して参ります」



このリリースに関するお問い合わせは下記まで

株式会社 TOHO 三山幸枝

E-Mail:miyama@tohoracing.jp

URL:<http://tohoracing.jp/>

〒739-0024 広島県東広島市西条町御菌宇 378-3

Tel (082) 493-7895

Fax (082) 493-7894